

館（旧郵便局）

郵便局から食事処へ 洋風スタイルな木造建築

ご飯時にお客さんで賑わいを見せており、町民の皆に愛されている食事処「館」ですが、建物の最初の用途は浦臼村の郵便局として昭和10年頃に竣工しました。札幌線の全線開通と同じ年ですね。現在もエントランス部分では郵便局時代の名残である窓口がお客さんをお出迎えしてくれています。郵便局として使用していた時期は、役場庁舎や消防署なども木造建築で、石造の建築もあり、市街地はちょっとハイカラな景色だったことが想像されます。

【構造・規模】
木造 2階建て
【竣工年】
昭和10年頃



◀旧郵便局

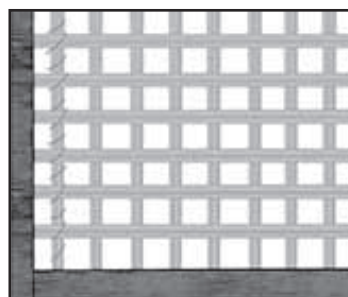


◀内部の様子

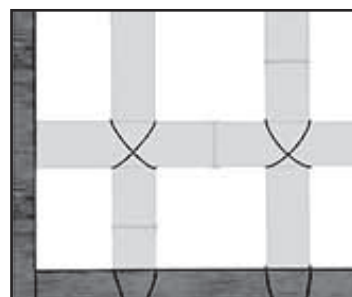
|| モダンな建築様式

この時代の郵便局はまちのシンボリックな建物になるので当時の郵便局や通信を管理する逓信省は全国の主な郵便局に近代建築様式を取り入れたようです。浦臼村の郵便局も例に漏れずモダンなスタイルとなっており、上げ下げ窓は札幌にある重要文化財の「豊平館」と同じ様式になっています。しかし、洋風スタイルであればペンキ塗りにするところですが、この建物は民家と同じ素地の下見板張りになっています。現在の「館」は金属サイディングに覆われていますが、サイディングを剥けば当時の下見板が出現します。ちょっと見てみたいかも…？

|| 北国ならではの構造



▲葦の木舞



▲竹の木舞

外観は洋風ですが、構造は和風で昔からある木造軸組みというものです。そして特徴的なのが「土塗り壁」本来、竹を組んだ「木舞」に土を塗って壁にしますが、北海道などの寒冷地ではなかなか竹が取れないので「葦」で代用しています。町内の同年代の建物でも同じ造りがみられました。葦は竹よりも強度が弱いので竹の場合よりも間隔を細かくして、束ねて土壁の下地にしています。北国ならではの工夫を感じますね。



▲「館」何も塗っていない素地の下見板



▲「豊平館」こちらは白とウルトラマリンブルーのペンキ塗りの「館」と同じ上げ下げ窓



こんにちは！
札幌市立大学の三角^{みかど}颯音と申します。めっきり寒くなって来ましたが、いかがお過ごしでしょうか？私は急な寒暖差にやられて体調を崩しました。みなさまもお気をつけください！私はこれまで何度か浦臼に行ったとき必ずと言って良いほど館でご飯を食べているのですが、あんなにメニューが豊富なのに何でも美味しく本当に毎回感動しています！まだまだ浦臼に何う機会があるのでいつかは全メニュー制覇とかしてみたいですね。写真は館で頼んだホットケーキです！美味しかった！